

公共図書館の職員構成が貸出冊数に及ぼす影響の検証

幡谷 賢一

日本の公立図書館には、専門職としての司書を置くという司書職制度が存在し、専門職としての司書の重要性も認識されつつあるものの、司書職制度の採用は進んでいないのが現状である。

本研究の目的は、公共図書館の職員構成が、貸出冊数にどのような影響を及ぼすかを明らかにし、図書館に専門の司書職を設けることの意義を明らかとする事である。このため、日本の公共図書館に関する統計資料に対して回帰分析を行う。この分野について、人件費や資料費の面から分析を行った研究はあるが、実人数を対象とした研究は行われていなかった。

今回の研究では、「日本の図書館 統計と名簿 2010」に掲載されている日本の公共図書館のうち、市区町村立図書館 3153 館を対象として分析を行った。これに対し、被説明変数として貸出冊数を、説明変数として司書職員数、事務職員数、新規受入図書冊数の 3 つを使用した回帰分析を行う。

これらに対し、説明変数、被説明変数のデータに欠落のある館は除外し、中央館に統合された項目があるものについては全項目を中央館に統合して 1 館とし、得られた合計 2832 館について分析を行った。

その結果、概ねこの 3 つの説明変数は貸出冊数に関して有意な説明変数であることが分かった。また、司書職員と事務職員では、司書職員のほうが単位人数あたりの影響量は大きな値を示した。

分析結果から、司書職員数、事務職員数、新規受入図書冊数の 3 つは、いずれも貸出冊数に対し有意な説明変数であることが示された。しかし、説明変数の中で、特に司書職員数と事務職員数の間にはかなりの相関関係があり、これらについては多重共線性が存在することを考慮する必要がある。

今回は図書館内部の要因の一部について分析を行ったが、今回使用しなかった図書館内外の他の要因の中にも、貸出冊数に影響を与えると考えられるものが多く存在しており、これらについての分析も必要であると思われる。

(指導教員 田村肇)